

令和元年度 第2回南箕輪村地域公共交通会議 会議録

日時：令和元年 12 月 6 日（金）

午後 1 時 30 分から

午後 2 時 25 分まで

場所：南箕輪村役場 2 階 講堂

出席者数：委員 20 名中 14 名

欠席委員：宮本委員、伊藤委員、山本委員、酒井委員、城田委員、清水委員

【進行 地域づくり推進課長】

1 開 会（丸山副会長：神子柴区長）

2 あいさつ（会長：村長）

改めまして、こんにちは。今年も 1 か月足らずとなつてまいりました。本当に月日が経つのは早いなという感じがしているところであります。本日は大変お忙しい中、地域公共交通会議に御出席いただきましてありがとうございます。年 2 回ほど開催させていただいているところでございます。本日は、まっくんバス、伊那本線の状況などについて中間の報告をさせていただきたいと考えております。高齢化社会が到来してきております。高齢化社会になればなるほど高齢者の足の確保をどうするのかというのが大きな課題となつてきているところであります。本村でも現状の体制・利便性向上を図るとともに、新たな体制構築に向けての検討もしていかなければならない時代となっているのかなと思っています。しかし本村の場合、高齢者の皆さんには、車のない、あるいは免許がない、あるいは昼間家族がいなくてどうにもならない等々につきましては、福祉面から福祉移送サービスというものを実施しています。一定の条件はありますけれども、買い物や病院、ドアツードアで福祉サービスを行っております。そういったことを組み合わせながら新たな体制への検討をしていかなければならないと思っています。ところでございます。福祉移送サービスを組み合わせることによって、ある程度カバーはできるのではないかなと考えているところでございます。いろいろな課題はありますけれども、一步一步前に進めていかなければならないと考えておりますので、どうか皆様方の御意見をいただければと思っております。まっくんバス、本村の独自運営につきましては、どうしても 2 台体制で全村を網羅するという形になっておりますので、なかなか御要望にお応えできないという面もある

ところであります。これからは、またこれも御意見をお聞きしながらではありますけれども（利用者が）0.1 人以下の停留所をどうしていくのかというこういった問題も検討していかなければならないのかなというふうには思っております。この辺につきましては時間をかけながら丁寧な検討が必要かなと思っております。そんな点もぜひまたよろしく願いいたします。一言申し上げまして挨拶とさせていただきます。

3 協議事項（進行：会長）

（1）南箕輪村巡回バス「まっくんバス」の運行状況について

（資料に基づき、事務局説明）

令和元年度 10 月までの利用者は 7,943 人で前年比 100%。1 便あたりの利用者は 3.1 人となっています。

昨年の利用者数とほとんど変わらない状況です。

利用促進策として、30 年度から 75 歳以上の方の運賃の無料化をしていますが、利用者のうち、約半数が 75 歳以上の方であると推測されます。

その他、無料乗り放題デーを実施しています。実施日については、伊那市、箕輪町と連携して取り組んでいます。

（会長）

まっくんバスの状況について御説明申し上げました。何か御質問等ありましたらお願いいたします。

先ほど、挨拶の中で触れさせていただきましたけれども、利用者が 0.1 以下のところをどうしていくのか、時間をかけて御意見をお伺いしながらということと考えておりますので、よろしくお願いいたします。こういった所を省くことで乗車時間が短くなる、あるいは他の所を回れるという可能性も探っていかなければならないのかなと思っているところでございます。

（質疑なし）

（2）伊那地域定住自立圏運行バス「伊那本線」の運行状況について

（資料に基づき、事務局説明）

令和元年度上半期までの利用者は 11,560 人。平成 30 年の上半期は 9,749 人、平成 29 年の上半期は 7,381 人なので、年々利用者が増えている状況です。

1 運行あたり 11.32 人。（1 便あたり 5.66 人）

利用促進策として、高齢者向けお試し乗車券の配布と、10 円で乗車できる「10 円バスの日」を実施しています。

(質疑なし)

(3) 西箕輪線の運行状況について

(資料に基づき、事務局説明)

平成 30 年度まで伊那バスの独自路線であった西箕輪線について、今年度から伊那市地域公共交通協議会が運行する路線となり、村内運行分（3 km）については、村から伊那市協議会へ負担金を支払うこととしています。

令和元年度の上半期までの利用者は 17,849 人（1 便平均 9.89 人）となっています。伊那養護学校への通学など多くの方に利用されています。

(会長)

西箕輪線について御説明申し上げました。年間にすると 35,000 人くらいの利用があるということで、伊那本線と比べるとかなりの利用者であります。伊那市と共同しながら南箕輪村は 3 k m 分は持たせていただいているということでございます。何か御質問ありましたらお願いいたします。

これは伊那バスさん、伊那本線と比べるとかなり利用度が高いわけですがけれども、その辺の分析は何かありますか。

(伊那バス 藤澤委員代理 福澤管理部長)

伊那バスでございます。日頃から大変お世話になっております。伊那本線に比べるとといいますか、一番大きなところは列車と並行していないという部分も大きいところではあるんですけども、何より住宅密集地と市街地、中央病院や養護学校といった主要なところを結んでいる路線なものですから、伊那本線と比べるとさらに生活利用者、沿線住民の多さと他の交通手段がないということが利用の多い原因だと思っています。

(会長)

ありがとうございました。何か御質問がありましたらお願いいたします。

(質疑なし)

(4) まっくんバスルート等への要望について

(資料に基づき、事務局説明)

前回第1回の会議の際に、地区の要望の取りまとめをお願いし、出されたものについての対応をお示ししています。

伊那本線への要望については、本村と伊那市、箕輪町で構成する伊那地域定住自立圏の交通部会の中で検討させていただきます。また、まっくんバスの空白地帯への新たなバス停設置の要望については、1台のバスが常に巡回しているまっくんバスの運行上、既存のバス停の廃止とセットで考える必要があるため、AⅠを活用した自動配車乗り合いタクシーなどを併用する新たな公共交通を考えるタイミングで採り入れたいと考えています。

(会長)

(バス停の新設について) 迂回等を含めていろいろと考えてみてください。要は、使っていないバス停を廃止することによって、すぐにはできないけれども考えていかなければいけないと思いますので、時間的にもどのくらいかかるかどうか、検討していただければと思います。いずれにしましても今の現状でいいとは思っていません。AⅠを活用しての伊那市の実証実験などもどういうふうになっていくのか、その辺も見ていきたいなと思っていますし、同時に75歳以上の皆さんで車がないという方については、一番いいのは福祉移送サービスを使っていただければ、買い物、病院、家の前から行ける、ドアツードアですので、そういったことも宣伝しながら当面はいろいろな検討をしてまいりますので、お願いをいたします。

(松澤委員)

この前、まっくんバスを利用させてもらいましたが、利用が少なかったのと、時間がかかったということがありました。今は月3回利用できる福祉サービスの利用を増やしていったほうが良いのではないかと思います。バス停まで歩けない高齢者もいるので、福祉関係を充実させていったほうが免許返納にもつながるのではないかと思います。

(会長)

その辺は十分、利用度をあげるように、月3回ではなくて月4回にできないか、月4回といえば週1回は利用できますので、そういった検討をするように指示をしているところです。

(征矢委員)

お聞きしたいのですが、国道や県道などは別にしても田んぼ道などを走っているようなときに、自分の家がすぐそばにあると、途中下車させてもらえばとても都合がよいと思いますが、そうした対応ができませんか。

(事務局)

交通量が少ない道ではフリー降車区間というものを設けていまして、その区間では、バス停ではないところでも運転手さんに声をかけてもらえれば降りることが可能です。

(会長)

そういったことの周知徹底もしていかなければならないと思います。

(唐澤委員)

お聞きをしたいのですが、利便性という中で、時間を重視するのか、場所的なものを重視するのか、村内を上から回っていても時間的にそんなにかかるのかなという思いもしていて、乗る場所を増やして利便性を増せば乗る人も増えるのかとか、そうしたことも考えてもらったほうがいいのかと思っています。

(事務局)

いただく意見としまして、行きたいのは大芝なのに久保などを遠回りして時間がかかるというものなどが多くあり、利便性の向上としては時間を重視する方向となっています。今は、いろいろな意見をお聞きする中で、村内のいたるところにバス停を置いており、目的地までの乗車時間が長くなっている要因となっています。できれば、大きなバスは大きな道を走らせ、補完するものを小さい車両でするなど、まっくんバスだけですべてを解決させるのは厳しいと考えていますので、福祉移送サービスなどを組み合わせていくしかないかなと考えています。

(会長)

デマンドという方式もあります。ただ、デマンドもやっているところの状況をお聞きすると難しい面もあるようですし、いろいろなものを組み合わせていかないとこれからはできないのかなと思っています。一番は時間短縮です。こ

れをしながら、1台は大きいバス、1台は小さいバスで運行するようなことも考えながら高齢者の足の確保をしていかなければと思います。

(白川タクシー 白川委員)

対応策の中で AI をということが書いてありますが、先月乗り合いタクシーの運行を担当させていただいた中で、どういう技術かということも合わせた意見として、少なくとも今の南箕輪村では合わないと思います。これだけ地域の公共交通が発達しているようなところで、外れたところだけ行くという意味で AI 配車をするとコスト高です。伊那市さんが運行している AI 配車は基本的には、路線が細くてあまり回っていないようなところで、そこから中心市街地を結ぶという考え方でやっていますので、もしこれを入れようとするともっくんバスの路線をかなり削るとか、統合を考えないといけないので、現状のものに合わせるというのは難しいと思っています。それと、AI というと先進的なものだと思われがちですが、基本はスマートフォンを使った配車予約システムで、現実にはそれを使った方々も少ない状況です。スマートフォンを持っていないければタクシーの位置把握もできません。相乗りする率もそれほど高くないので、補助金を使ったタクシーと何が違うのかということになります。システムを入れるなら全員がスマートフォンを持っているような状況にならないければ意味がないと言わざるを得ませんので、AI という文言は外した方がいいのではないかと思います。福祉輸送を使っていくということの方が現実的ではないかと思っています。

(その他、質疑なし)

(5) その他

なし

6 その他

なし

7 閉 会 (丸山副会長)